心の和がれ No.42

（2013/５ ～ ６）

ｐ 01～01	近場で自然を楽しむ	ｐ 03～03	みんな元気
ｐ 01～01	活動計画に期待	ｐ 03～03	開発説明会に参加
ｐ 01～02	信州黒姫への旅	ｐ 03～04	人に学ぶ
ｐ 02～02	病の治療は	ｐ 04～04	紫陽花に思う
ｐ 02～03	地域のクリーン作戦		

2013.05.05

・近場で自然を楽しむ

空に広がる鯉のぼりの銀りんが、数えられるほどの五月晴れです。一年中で一番美しい５月、山や野が私たちを招いています。行楽地へは大勢の観光客で賑わっていることでしょう。わが老夫婦は地域の里山へ日課の散歩で筍の伸び行く勢いに若さを感じ、流れる瀬のセリに頬お寄せ香りを楽しみ、樹木に簑のごとく覆いかぶさる山藤に生きる強さを感じ、鶯のさえずり、キツツキ科のコゲラがコンコンとこだまする。陽と緑、香りと響きそして安らぎ。自然を感じられる喜びはまさに値千金。お金を払って余暇を楽しむよりも、手弁当のおにぎり片手に自然と戯れるこれほど贅沢な余暇はない。

2013.05.12

・活動計画に期待

今日は地域４区の総会に出席する。住民約４０００世帯の組織であり区長と三役の選任が行われる。今季から新役員が大半と聞く、新しい感覚で誇れる我が町を確立して頂くことと、今期の活動計画に期待し拝聴したく思う。「全体は個人のために、個人は全体のために」デュマ

2013.05.19

・信州黒姫への旅

四季の移り変わりは、生活にめりはりと豊かな人生の年輪を刻む発条（ばね）ともなる。５月は新緑に衣替えをした木々に安らぎと感動を覚え一年中で一番美しい時季「木育」の一端を味わった、と「恐山」が信州黒姫のペンション「風のうた」での感動を熱く語る言葉が食卓に花を添える。苦労をかけた

妻が元気で絶やさぬ笑顔を見るのが至福の時である。◆青葉若葉の輝きに満ちたこの時季「木育」の木と触れ合い、木に学び、木と生きる取り組み、人と木が関わりながら、多くの人と楽しさや嬉しさを共感することは「思いやり」「優しさ」を育み、「食育」の一人ひとりが食の大切さを学ぶことで健やかな身体を育む。自然からの恵みを感謝して受け取る基本姿勢であり「教育＝共育」子供たちと共に学び教わり合っていく日々でありたい。◆以降は恐山の文を掲載。宿泊先のペンション「風のうた」の薦めで当地は小林一茶の出身地で町を挙げて句を募集しており、ここに句と心想を書き込みました。①「ゆく春を　惜しみて　車窓の人となる」※心想：色彩豊かな、春の山の芽吹き、あと幾日かすれば、濃い緑の森に変身してしまう。今日この時季の森を見ることができて良かった（信濃路の旅に思う）②「信濃路や　藤花房に　迎えられ」※心想：長野から信濃大町へ向かう特急バス。車窓の両側には藤の花が満開。北アルプス連山がくっきりと見え。私達を迎えてくれました。”超素人の一句お粗末様”◆最後になりましたが、心のこもった気配り、心配りに、思い出深い旅になり、ありがとうございました。「風のうた」

2013.05.26

• 病の治療は

妻の付き添いで大阪の関西電力病院へ。新建屋が完成した地下２階・地上１８階建て５月にオープン、高機能化や院内環境の充実を図り、最高水準の医療を提供、病床数も４００床、職員数は７８７名。２４日９時３０分の予約で診察時間は１時間ほど、治療ファイルが渡され、即支払いもATM状の機械が対応である。病院では治療後も精算まで時間を要し終わるまで２～３時間以上は要するが「もう済んだのか」治療に手抜き？いやいや医師の治療説明も細かく丁寧、もちろん看護士も暖かく対応。「この病院に通院して本当に良かった」と家内は大変満足。病院の中には上から目線で不愛想そして容体の説明不足が拙生の体験。病も気からと申すがごとく、医師の対応で病気との付き合いも楽になる。草木が太陽の光を得て、生命の力を開発していくように、早期回復への可能性は、医師と患者の関係性の中で、治癒の力が加速する。四百四病も医者の暖かい言葉で「あの時の励ましがあったからこそ、今の自分がある」と言えるのではなかろうか。

2013.06.02

• 地域のクリーン作戦

町内会の住民一同が美化運動に参加した。当地域は日ごろから「隣三尺」の意識を以て朝には門口の清掃と打ち水、側溝の除草に心がける。各家庭では花で門前を飾り、夕刻には門燈を点灯し防犯に努め「個人は地域のために、地域は個人のために」を心がけることで団結力もおおきい。◆然しながら一部の住民が「なぜ他人の箇所まで清掃するのか」と町内会への入会を拒否する人もいる。が、その人の門前の除草まで地域美化のためにと清掃する人たち。地域は助け合う人の集まり、感

謝を忘れない人の集まり、人の痛みが判る集まりでありたい。目に見えない多くの人たちの善意が個人や地域を支えていることを忘れてはなるまい。◆いつもながら幼子も清掃の輪にある。紅葉のような手にシャベルを持ち、草を懸命に抜く姿に大人たちは自然と笑顔になり”上手だね””たくさん抜けたね”褒める言葉が飛び交う。幼い時に受けた小さな激励も、鮮明に頭脳の中で生きているものです。若くみずみずしい生命は自身への励ましをスポンジが水を吸うがごとく蓄える。だからこそ将来に可能性を大いに秘めた、子供たちを育む大人たちも、倍する真剣さで臨みたい。◆今日も有意義な一日の始まりである”ありがとう”

2013.06.09

• みんな元気

６月ともなるとすっかり夏。「水無月」炎天続きで田の水が枯れてしまうからこの名前があるそうな。また、「青水無月」樹木が青々と茂るのでこの名もある。今年は一向に降らない「からつゆ」例年ぎらぎらと日が照りつける梅雨時の見舞いでうれしいものだが、各地では耕作に影響がでているとの報に野菜の高騰につながるのでは、と年金生活者にとっては諸物価の値上がり傾向に憂慮する。◆憂いても仕方がない。農家では忙しい時期、麦が豊かに実って刈り入れるころを麦秋というが、苗代で育った苗を水田に移し替える田植えだろう。幼いころの風景である紺がすりの着物に赤だすきをかけて手ぬぐいをかぶった、早乙女の姿は日本そのものの美しさ。今では神事で見る以外は無くなった。物のあふれた時代で若者には日本古来の美しさや米一粒の価値を学んでほしい。お茶碗に一粒も残さずいただき、手を合わせ「ごちそうさまでした」これが日本人のあるべき姿でしょう。
◆６日に娘夫婦が横浜から帰京した、老夫婦の私たちにとって夫婦和楽が何よりのお土産である。９日には京都市内の長女が訪れる。「みんな元気」うれしい限りである。・・・・ご高覧「ありがとうございました」

2013.06.16

• 開発説明会に参加

15 日に枚方市の中ノ芝区画整備事業の工事説明会に行きました。１０㌧の工事車両が日に１００台、出入りを含め２００台が通行します。搬入路は踏切通過と 45 度の急カーブを曲がらなければならず。日ごろから事故のないことを住民が願っており、それに関して意見が噴出した。結果的には搬入搬出時の車両のシュミレーションをして再度説明の場を開くことで散会した。◆施工者は公園と住宅そして商業施設も予定、住民のためにと前向きな姿勢と思うが、説明不足や一度きりの説明で工事を進めようとの腹が見える。開発関係者は利益追求だけでなく住民の安心安全を第一に考え、対処していただきたい。

2013.06.23

• 人に学ぶ

久々に友と二人っきりの一献会をもった。高校時代のただ一人の友人で早 57 年になる。後期高齢に近づく彼は活発な孫と張りのある生活を営む、国内はもとより外国へと視野を広げた教育を心掛ける親御さんの補佐的存在で外国への旅も多く、自身も未だ変わらずぬ好奇心旺盛に学ぶ姿勢に敬服する。◆私の最終学歴は高校である。あまり勉強は好きでなく当然成績は普通であった。しかし親の望みは願わくば大学へであっただろう。学ぶということは、師弟・学友という「人間世界」に身を置くことにある。その触れ合いがあってこそ、人生を豊かにする知恵と知識が得られる。大学は学問をするだけのシステムではない知識だけ得たければ独学で十分だ。大学で学ぶ一番大切な事は「人との出会い」「人に学ぶ」ことが重要。人は一生涯学びを求める心を持ち続けることで豊かな心身を得ることができよう。親の気持ちを 57 年前に理解しておれば、少しは賢くなっていたかもしれない。◆現在は遅まきながら「人との出会い」の大切さを認識。質素ながら夫婦して坪庭のガーデニングや近場の自然や美術館を巡り、サークルの踊りに興じ健康維持に 1 時間ほどの散歩を心掛け、健康に感謝し地域活動に勤しむ和楽の日々である。

2013.06.30

・紫陽花に思う

今朝も石清水八幡宮の境内で約 100 名ほどが参加する早朝ラジオ体操で心地よい汗を流した。小鳥のさえずりに歩調を合わせ、また土壌の違いや開花後の日によって違う色のアジサイの眺めもすがすがしい。日本生まれの品種で「七変化」とも呼ばれる、◆心変わりと象徴され少々敬遠されがちであるが、人間が暮らしの中で服装を変える内面は同じだが表面を飾り”どうだ、これが私だ俺だ”と化ける姿をアジサイはいかに見ているだろう。そう云う拙生も長生きの秘訣は「好奇心・おしゃれ・色気」だ。◆アジサイのように所により時代によって多様に変化する人間の心。前後左右と揺れ動く心を、前へ前へと自分が強く生きるための発条(バネ)としたい。

2013.05.～2013.06

END